

受刑者とロゴセラピー

～加害者とバイザイン～¹

汪楠

はじめに

私は中国生まれの中国人で、父親の再婚で中国残留孤児2世として14歳の時に来日しました。いじめと差別を受け、抵抗していくうちに、暴力を暴力で返すようになり、被害者から加害者になっていき、非行少年から職業的に犯罪を行うヤクザとマフィアの二足の草鞋を履くような10代と20代を送ってきました。

28歳の時に窃盗詐欺の罪で有期刑の最高刑である15年を求刑され、13年の実刑判決を受け、岐阜刑務所で42歳になるまで服役していました。

受刑中にロゴゼミの長老である中島さんからフランクルの『夜と霧』を贈られ、そのご縁でロゴセラピーと出会い、在監中に学び始め、出所後にロゴゼミに参加するようになりました。

ロゴセラピーを学び、私の生き方も変わりました。

刑務所にいるときから実践をはじめ、何人かの隠してきた過去を聞き出し、カウンセリング的なことを試みました。

2000年に逮捕され、出所したのは2014年でした。それまでの人生を否定するのではなく、自分の過去を生かすことはできないかと考え、法律事務所に勤めながらボランティア活動をはじめ、そして1年後に発起人になって「ほんにかえるプロジェクト」という受刑者の更生を支援する団体を設立し、今も活動を継続しています。

今回のテーマに移りたいと思います。

受刑者とロゴセラピー ～加害者とバイザイン～

私の父は中国で有名な医者でした。私自身も賢い子供と褒められて育ちま